

2024年5月9日

2024年度 鉄道事業設備投資計画

西武鉄道 過去最大の総額334億円

「沿線価値向上」・「デジタル化」・「働きがい向上」へ積極的に投資

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：小川 周一郎）は、本日西武ホールディングスが公表した長期戦略ならびに中期経営計画に基づき、安全・安心・快適をキーワードとした価値向上と持続的発展を通じ、住みたい沿線・訪れたい沿線となるために取り組んでまいります。これらの戦略の初年度となる2024年度は、安全・安心なサービスの更なる追求を事業の根幹に「沿線価値向上」・「デジタル化」・「働きがい向上」を重点テーマに、西武鉄道過去最大*となる総額334億円の鉄道事業設備投資を実行し、次年度以降も見据えた沿線価値創造に取り組んでまいります。

※自社投資額のみ

《2024年度 鉄道事業設備投資の概要》

【事業の根幹】安全・安心なサービスの追求

「より安全な」・「より快適な」設備の追求

- （1）より安心してご利用いただけるバリアフリー設備へ
 - ホームドア整備、運行情報提供設備の整備、エレベーター・エスカレーター更新
- （2）より安全な踏切へ
 - 高規格な踏切支障検知装置の新設・更新、特殊信号発光機のATS連動化、踏切異常検知システムの新設
- （3）車内／駅構内の安全確保・防犯対策・事故分析等への活用へ
 - 車内防犯カメラ・ドライブレコーダーの整備推進

重点テーマ① 沿線価値向上

次世代の新宿線に向けて

- 連続立体交差事業（中井～野方駅間、東村山駅付近、井荻～西武柳沢駅間、野方～井荻駅間）
入曽駅 東西自由通路・橋上駅舎整備工事

※2025年度以降も、新宿線の有料着席サービス刷新や西武新宿の新たな地下通路整備の計画などに取り組み、新宿線のバリューアップを積極的に推進します。

より環境にやさしい西武鉄道へ

- 40000系通勤車両導入、サステナ車両導入、LED照明導入

重点テーマ② デジタル化

次の時代を見据えた技術革新への基盤づくり

- タッチ決済による乗車サービスの実証実験、無線式列車制御（CBTC）システム実証試験、運行管理システム（SEMTRAC）更新

重点テーマ③ 働きがい向上

働く社員の職場環境の改善・整備

- 働きがいのある環境づくりや職場環境の整備により、従業員の満足度向上へ

詳細は、別紙のとおりです。

【別紙】

2024年度 鉄道事業設備投資計画について

【事業の根幹】安全・安心なサービスの追求

「より安全な」・「より快適な」設備の追求

ご利用いただくお客さまと西武線沿線にお住まいの方々の安全な暮らしを最優先に考えた安全対策投資に重点をおくとともに、今まで以上に快適にご利用いただけるサービスの提供を目指します。

(1) より安心してご利用いただけるバリアフリー設備へ

鉄道駅バリアフリー料金制度を活用したバリアフリー設備の整備を引き続き推進します。

・ホームドア整備

これまで整備を進めてきた1日あたりご利用者数10万人以上※の駅(池袋駅、練馬駅、西武新宿駅、高田馬場駅、所沢駅、国分寺駅)のほか、2023年度より10万人未満の駅への整備に着手しており、引き続き整備を進めます。2024年度は練馬高野台駅と石神井公園駅の稼働を目指します。

※ご利用者数は2019年度実績を基準としております。

【今年度稼働を目指す駅 2駅6番線】

練馬高野台駅、石神井公園駅

【整備に着手している駅 6駅17番線】

池袋駅(1番・7番・特急ホーム)、中村橋駅、富士見台駅、新桜台駅、東村山駅、新所沢駅

【整備に向けた検討を進める駅 3駅8番線】

大泉学園駅、花小金井駅、小平駅

※下線箇所は、昨年度公表計画から更新している箇所です。



・運行情報提供設備の整備

当社線および他社線の列車運行状況や列車の発着状況を表示するご案内設備の整備を進めます。現在ターミナル駅や乗換駅を中心に整備している列車運行情報提供システムの設置駅を拡大するほか、西武線アプリの機能を活用したサイネージの新設を進めます。



列車運行情報提供システム ディスプレイ



西武線アプリの機能を活用したサイネージ

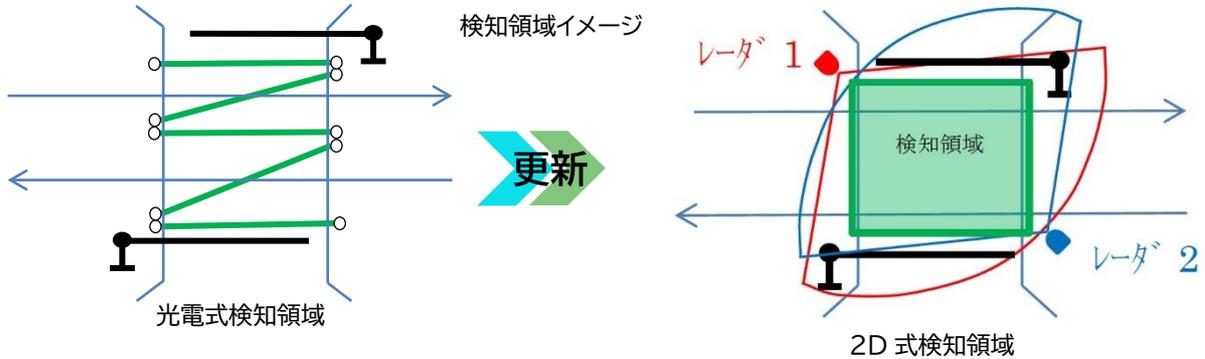
・エレベーター・エスカレーター更新

鉄道駅バリアフリー料金を活用し、新たなバリアフリー設備の整備に加え、老朽化したエレベーター・エスカレーターの更新も推進します。

(2) より安全な踏切へ

・高規格な踏切支障検知装置の新設・更新

踏切支障検知装置の高規格化を進め、従来の「線」で検知する方式（光電式）から、「面」で検知する方式（2D式）に更新することにより、検知能力を向上させて安全対策を強化します。今年度は新設2カ所・更新10カ所、計12カ所の踏切へ設置予定です。

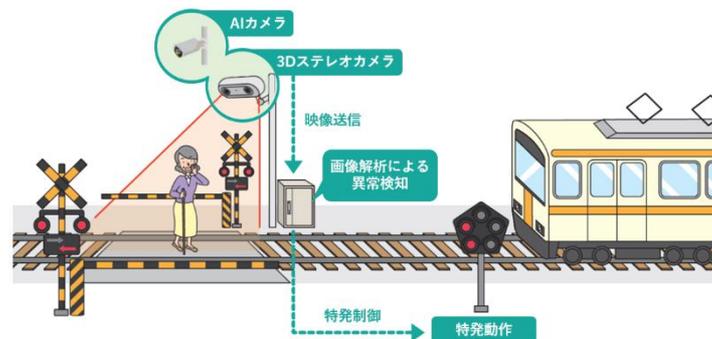


・特殊信号発光機のATS連動化

踏切安全対策として、特殊信号発光機（踏切内の異常を運転士に知らせる信号）とATS（自動列車停止装置）を連動させ、事故防止を図ります。昨年度までに15カ所の踏切への設置が完了しており、今年度7カ所の踏切に設置します。

・踏切異常検知システムの新設

踏切内にとり残された「人」を画像解析により検知し列車に知らせる「踏切異常検知システム」を開発し、2023年度までに9カ所の踏切に設置しました。今年度は2カ所の踏切に新設します。



(3) 車内／駅構内の安全確保・防犯対策・事故分析等への活用へ

・車内防犯カメラの整備推進

車内の防犯対策・安全性向上のため、車内防犯カメラの整備を推進します。2025年度末までに全車両への車内防犯カメラ設置を目指すほか、従来の記録式カメラ設置車両はリアルタイムに映像を確認できる通信式カメラへの置き換えを進め、2026年度末までに通信式カメラ設置100%を目指します。



車内防犯カメラ(通信式カメラ)

・ドライブレコーダーの整備推進

事故や列車運行への妨害行為等発生時の状況確認および原因究明を目的に、列車運行中の前方および後方映像を記録するドライブレコーダーの全編成への導入に向け、今年度も整備を進めてまいります。

・入曽駅 東西自由通路・橋上駅舎整備工事

狭山市の入曽駅周辺整備事業の一環として、駅周辺の安全性と利便性の向上、人の流れの活発化を図ることを目的に、狭山市に協力して事業を実施しております。また、入曽駅周辺整備事業では、入間小学校跡地の複合型商業施設整備、東口・西口それぞれの駅前広場の整備も計画されており、駅周辺の利便性向上が期待されています。



画像提供:狭山市

【参考】狭山市 入曽駅周辺整備事業

<https://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/shisaku/tosikeikaku/irisoeki-syuhen/index.html>

2025年度以降に予定している事業

・新宿線 有料着席サービスの刷新

現在、新宿線で運行している10000系車両(ニューレッドアロー)について、今後新たな車両へ置き換えるとともに、有料着席サービスの刷新を検討しています。柔軟な運行形態やお客さまの着席機会の拡充など、サービス向上を図ります。2026年度中の運行開始を予定しており、詳細は決まり次第お知らせします。



置き換え対象の10000系車両

・西武新宿 新たな地下通路整備の計画

2021年度に、西武新宿駅からつながる新宿サブナードとメトロプラムナードを結ぶ新しい地下通路が、都市計画決定されました。これを受け、引き続き本通路の早期実現に向け、具体的な検討および関係者との協議を進めます。

本通路の開通により、西武新宿駅をご利用のお客さまの新宿駅(JR線・東京メトロ丸ノ内線)との乗換利便性および、まちとまち、駅とまちの回遊性の向上を目指していきます。



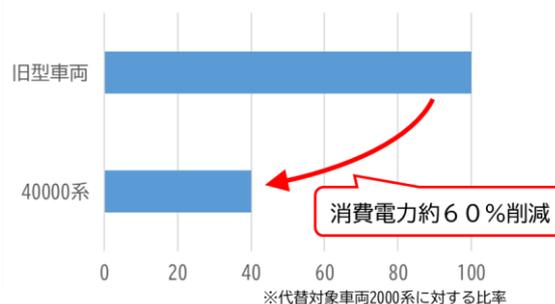
より環境にやさしい西武鉄道へ

西武グループでは、更なる地球温暖化防止への貢献に向け、西武グループ全体でのCO₂排出量を2030年度までに2018年度比で46%削減するという環境負荷削減目標を設定しています。

本目標達成に向けた取り組みとして、2024年1月より全線で実質CO₂排出量ゼロでの運行に切り替えておりますが、一層の環境負荷・消費電力削減を企図し、2030年度までにVWFインバータ制御車両比率100%達成を目指すべく、積極的な車両更新を推進します。

・40000系通勤車両導入

旧型車両より省エネルギー化（消費電力60%削減）、低騒音化した40000系通勤車両を、今年度は3編成24両導入します。



40000系増備による消費電力削減効果

・サステナ車両[※]導入

当社は「サステナ車両」として、今後小田急電鉄より8000形を、東急電鉄より9000系を譲り受け、支線系（国分寺線や西武秩父線など）に導入する予定です。今年度は小田急電鉄から1編成6両のサステナ車両を譲り受け、整備・改修ののち、運行開始を目指します。

※他社から譲受したVWFインバータ制御車両を西武鉄道独自の呼称として定義



小田急電鉄 8000形

【参考】2023年9月26日リリース

「西武鉄道と東急電鉄・小田急電鉄「サステナ車両」を授受
各社連携して、SDGsへの貢献を加速してまいります」

https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230926_sasutenatrain/

・LED照明導入

LED照明は消費電力が低くCO₂排出量削減の効果が期待できるため、駅や車両への導入を進めています。今年度も引き続き、照明器具の取替に合わせてLED照明を導入します。

【参考】2023年11月7日リリース

「西武鉄道全線にて100%再生可能エネルギー由来の電力を使用し、実質CO₂排出量ゼロで運行します」

https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20231107_seibuCO2zero/

重点テーマ② デジタル化

次の時代を見据えた技術革新への基盤づくり

新技術、新システムを導入し、スマートな鉄道事業の運営と自動運転などの技術革新の基盤構築を目指します。

・タッチ決済による乗車サービスの実証実験

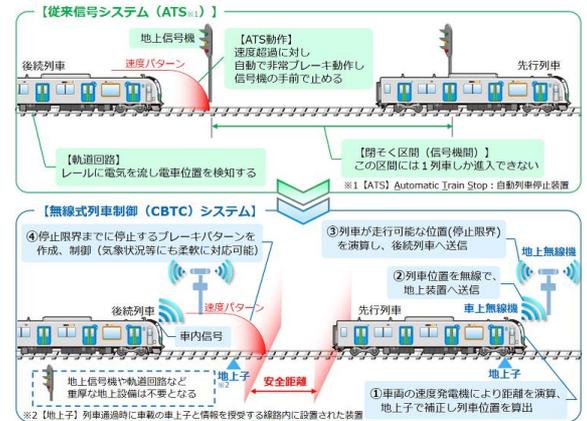
多様化するライフスタイルやニーズへ対応すべく、タッチ決済対応のカード（クレジットカード、デビット、プリペイド）や、同カードが設定されたスマートフォン等を活用した乗車サービスの実証実験を、2024年度後半にターミナル駅、観光地周辺を中心に21駅にて開始します。沿線にお住まいの方はもちろん、観光エリアやレジャー施設などへお越しのお客さまにも、シームレスに、より便利に移動できる多様な乗車サービスを提供することが可能となります。



自動改札機のイメージ

・無線式列車制御（CBTC）システム実証試験

2023年度より、省設備化によるスマートな事業運営、高度な自動運転、踏切の鳴動時間の最適化など、技術革新の基盤となる無線式列車制御システムの実証試験を実施しています。2024年3月より開始した走行試験を、引き続き実施します。走行試験での検証結果、鉄道各社の動向などを踏まえ、次世代信号システムの方式を決定し、2030年代に全線での導入を目指してまいります。



【参考】2024年3月6日リリース

「西武線全線への導入を目指し、2024年3月10日より、多摩川線で無線式列車制御（CBTC）システムの走行試験を開始します」

https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20240306_CBTC/

・運行管理システム※（SEMTRAC）更新

運行管理システム（SEMTRAC）の更新工事を進めており、2023年度は池袋線系にて新システムの運用を開始しましたが、2024年度は新宿線系にて運用開始する予定です。

新システムでは、運転司令所の運行表示盤を高性能化し、気象条件による運転規制や各駅のカメラ映像などを一元的に把握することが可能となり、荒天時や異常時における対応力が向上します。運行情報と連携しているホーム自動案内放送では、列車接近時の英語放送を追加したほか、優等列車の途中停車駅や遅延情報などの案内が可能となります。



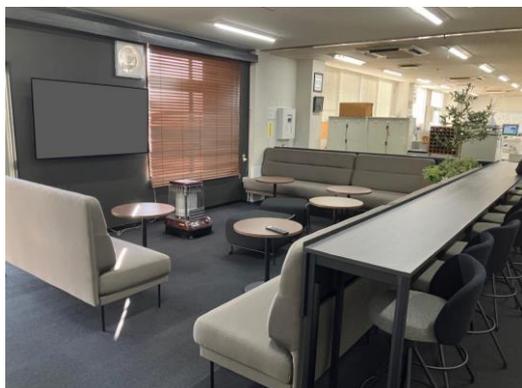
新運行管理システム

※運行管理システム：ダイヤに基づき信号・分岐器・駅の案内などを一括制御するシステム

重点テーマ③ 働きがい向上

働く社員の職場環境の改善・整備

従業員が働きやすい・働きがいのある環境を整え、将来を担う人財を確保する観点から、職場環境の整備を行います。現業施設の建て替え、宿泊施設の個室化、駅の従業員用休憩室のリニューアル等により、従業員のプライバシー確保や労務環境の改善により、従業員の満足度向上を図ります。



昨年度整備した乗務員休憩施設



今年度整備予定の宿泊施設イメージ

画像提供:竹中工務店

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. (04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：全日9時～17時（12/30～1/3を除く）]

以上